

地域コミュニティ型「ボトル to ボトル」水平リサイクル 神奈川大学の学生がペットボトル回収機のラッピングを考案

本年度スタートした地域コミュニティ型「ボトル to ボトル※」水平リサイクル実証実験の実施場所の1つである「神奈川大学」の学生が、ペットボトル回収機のラッピングデザインを考案し、10月から市内5か所に設置したすべてのペットボトル回収機にラッピングを施しています。

人間工学の研究の一環で、今後約一か月ごとにデザインを更新し、回収量の増加を目指します。

(令和8年1月頃に施すデザインは実証実験終了までラッピングします)。

※ 回収したペットボトルから新しいペットボトルを製造する方法で、新たに石油からペットボトルを製造する方法と比較して、二酸化炭素排出量が削減される環境に優しい取組です。



ラッピングしたペットボトル回収機と、デザインを考案した人間工学研究室のメンバー

神奈川大学工学部経営工学科人間工学研究室 ^{たかのくら} 高野倉 ^{まさと} 雅人 教授のコメント

人間工学研究室では、製品やサービスを利用する人びとの信頼や愛着を高め、より良い体験を創り出すユーザエクスペリエンス(UX)デザインやマーケティングに関する研究活動を行っています。その視点から、ペットボトル回収機を知って、理解して、そして多くの方々に利用してもらえるようなラッピングのデザインに、研究室の学生が取り組みました。

その第1弾として、ボトル to ボトルがコンセプトのペットボトル回収機の認知を高めて、リサイクルの効率を高める使用方法を、直感的に理解できるようにラッピングをデザインしました。具体的には、中心に目が行くように丸い構図として、ペットボトル回収機を利用する3つのステップを紹介しました。

※研究室への取材申し込み等については、裏面問い合わせ先をお願いいたします。

裏面あり



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



【参考】地域コミュニティ型「ボトル to ボトル」水平リサイクル実証実験の概要

・事業概要

地域や商店街等に本市がペットボトル回収機を設置し、地域の方々に回収に参加していただき、回収したペットボトルを事業者により再びペットボトルに水平リサイクルする取組です。この取組の持続可能性を検証する実証実験を市内5か所で開始しました。

・ペットボトル回収機設置場所

商店街	星川商店会（アンドゥスポーツ）	保土ヶ谷区星川2-6-30
	金沢センターシーサイド名店会	金沢区並木1-17
小学校	横浜市立三保小学校	緑区三保町1867
大学	神奈川大学横浜キャンパス 8号館前	神奈川区六角橋3-27-1
駅	京浜急行金沢八景駅（ウィングキッチン金沢八景 3階）	金沢区瀬戸15-1

・実証実験の実施期間

令和7年8月1日(金)から令和8年3月31日(火)まで

11月以降のラッピングデザインなどは横浜市ウェブページにて随時公開します。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/sumai-kurashi/gomi-recycle/pla-taisaku/bottletoobottle.html>



お問合せ先		
資源循環局 3R推進課長	今村 貴美	Tel 045-671-2563



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

